



写真の左から佐渡の津山晴彦さん、宇都宮の俳人いたま市の上田久行さん、研究担当のかさらは「自由俳句の会」殿岡浩佳、殿岡駿星です。風間秀子さんは途中で帰宅。

七月の「サロン」には六人が参加

「池袋モンパルナス」が圧巻

今回は佐渡の津山晴彦さんによる「池袋モンパルナス」の話が実に面白かったです。池袋モンパルナスとは、戦前から敗戦までの池袋にあった、若く貧しい芸術家たちの呼称だそうです。パリのモンパルナスに各国の芸術家が集まって活躍しました。それにちなんで、画家の小熊英雄が名付けました。具体的に巖光（あいみつ）の「眼のある風景（1938）」中村竣介の「立てる像（1942）」長谷川利行の「水泳場（1932）」真鍋英雄の「水辺（1941）」などの絵のコピーを配ってくれて、話しました。

次回は九月十四日です。
「サロン」三五回

あなたの本作り お手伝いします



合資会社勝どき書房

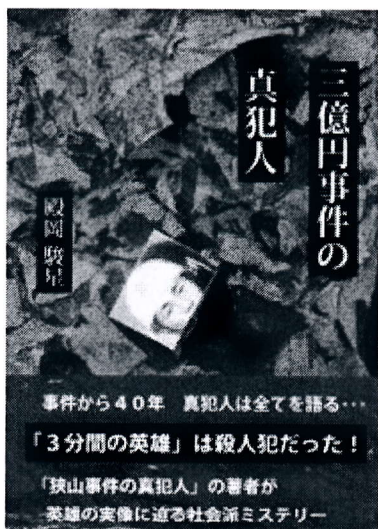
104-0054・中央区勝どき2-18-1-1115

電話 03-3536-5552

携帯 090-8024-5610(殿岡駿星)

メール syunsei777@yahoo.co.jp

郵便振替 00120-9-538001 資)勝どき書房



三億円事件の真犯人

殿岡駿星著 四六判上製
・332頁 1700円・税別

**真犯人は埼玉に、
週刊ポストで話題**

「三億円事件の真犯人」では、真犯人が埼玉県に住んでいると書いています。それで、このほど、週刊ポストが取り上げてくれたました。読者の中には、実際に真犯人の自宅の前に行つて来しました、と報告してくれる人もいます。しかし、危険なので絶対に近付かないようにしてください、と頼みました。

狭山事件 50年目の心理分析

狭山事件

殿岡駿星著 四六判並製
440頁 3200円・税別



1963年5月1日、埼玉県狭山市で発生した女子高校生殺人事件。有罪とされている石川一雄さんは再審開始を求めて闘っています。石川さんか支援のため、著者は事件の全データをプロファイリングして真犯人の存在を浮き彫りに。著者が出版した狭山事件の本はこれが3冊目。謎だらけの事件を合理的に説明して、真相を明らかにしている決定版といえます。

こんばんは、毛利小平太です。
— 霊談忠臣蔵 —

殿岡駿星著 四六判上製
360頁 2000円・税別

赤穂浪士の吉良邸討ち入り4日前に脱盟した毛利小平太が、夏の夜、私の前に幽霊となって現れた。小平太はなぜ突然仲間から離れたか、真実を語ってくれたのです。忠臣蔵に興味を持つ人なら、だれでも疑問に思う、小平太の脱盟の真実を明かします。小平太とオランダ医と運命的な出会いなど、本当の江戸時代にタイムスリップします。

「自由俳句の会」 夢道この一句

総身にルビー残して一糸もなし

(橋本夢道物語 九六ページから)

第3回「自由俳句の会」 八月二四日

「自由俳句の会」は四月に発会しましたが、第三回は八月二四午後二時から、勝どき書房の橋本夢道資料室で開催します。会員は6人でスタートしましたが、参加希望者が増えています。遠方の方はメール・郵便での投句も歓迎します。会費は年千円です。原則として偶数月の第二土曜日に午後二時から、午後五時ぐらいまでの予定ですが、八月は「平和プラザ2019」に参加のため、第四土曜日にしました。会員の投句を合評し、作品の中から金賞、銀賞、銅賞を選び、ブログで発信します。



第2回「自由俳句の会」の金賞はかさはらばあさんの句 「陽はときに昏くも見えて望潮」です。

銀賞は「陽光溢れおとこばの記事で窓を拭く(殿岡駿星)」、銅賞には「餅まきはじまらず青葉(佐川智英実さん)」を選びました。佳作は「あじさいの植え込み覆うどくだみの花(風間秀子さん)」でした。今回は、いずれもすばらしい句ばかり、どれを選んでいいか迷いました。

「平和プラザ2019」に参加

「夢道サロン」は8月11～12日に月島の社会教育会館で開催される「平和プラザ 2019」に参加します。展示のほかに、11日午後4時半からは、殿岡駿星が「俳句弾圧事件と日本の司法制度について」話します。戦前に新興俳句作家が44人も治安維持法で逮捕され、俳句界に壊滅的な被害を与えました。民主化されていない日本の司法についても説明します。津山晴彦さん工作の「檻の中の夢道」も展示します。

小さき村なれど

小松栄三郎著

四六判/236頁
1800円・税別



成田の寒村でキリスト教
伝道に生涯を捧げた
元幕臣飯田栄次郎
の物語

それは、あたかも江戸の中心で起きた幕府の瓦解という激震がもたらした津波のようなものであったかもしれない。その津波が、成田の下福田に押し寄せてきて、村を呑み込んでしまったとも言える。それは徳川幕府が禁じたキリスト教が、幕臣を伝道者にしてみまうほどのエネルギーをもっていたのである。そのエネルギーを、この下福田から見つめ直してみたい。
(本文「第1章幕府の兵卒・農村の教会」から)

南瓜大玉の日の本國憲法私案

かぼちゃだいおうのひのもとこくけんぽうしあん

南瓜 大玉著

四六判/272ページ
並製 2000円(税別)

日の本國は9条のおかげで70年間戦争しないで済んだ。それなのになぜ改定？著者の南瓜大玉は第1章に國民、天皇制は廃止。総理大臣制でなく大統領制。ほかに外國軍隊駐留禁止、武器輸出入を禁止、死刑廃止、脱原発、文科省を廃止、教育委員選挙制、非正規雇用の禁止、ベーシックインカム、安樂死、全國に自転車道・歩道の整備など、命を大切にする憲法私案を発表した。

「自由俳句」

2019年8月号

橋本夢道物語

妻よおまえはなぜこんなに可愛いだらうね

徳島の貧農に生まれた橋本夢道は、東京・深川の肥料問屋に勤め、十九歳で自由律俳句を志す。二四歳の春に月島の和裁の師匠荻田静子と恋に落ちた。番頭の嫁は店が決めるしきたりで、夢道は別れを告げたが、静子は畳に両手をつけてプロポーズ。「せつなくて畳に落ちる女のなみだを北るまい」と夢道は詠んだ。

殿岡 駿星 著

四六判上製 四二四頁
一九〇〇円（税別）



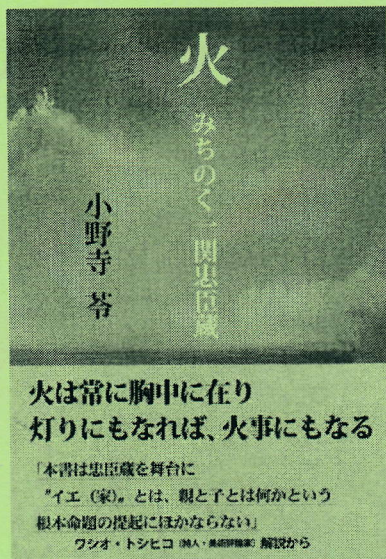
「自由俳句の会」参加者を募集

2019/04/13、「橋本夢道資料室」で、「自由俳句の会」が発足。偶数月の第2土曜日に開催しています。毎回、夢道の句を一つ選んで研究します。会員からの投稿句を鑑賞し、入選作を選びます。投稿句は一人5句以内とし、メール・郵便の投稿句も歓迎です。入選の中から、金銀銅賞の3句を選び、ブログ「自由俳句の会」で発信します。（年会費1000円）



合資会社勝どき書房
104-0054・中央区勝どき2-18-1-1115
電話 03-3536-5552
携帯 090-8024-5610
メール syunsei777@yahoo.co.jp
郵便振替 00120-9-538001 資)勝どき書房

あなたの本作りお手伝いします



火
火のく
一関忠臣蔵

小野寺 苓著
四六判上製・332頁
2000円税別

一関藩士牟岐平右衛門が元禄時代の大事件、忠臣蔵に巻き込まれる。赤穂藩の改易、刃傷、内匠頭の切腹、赤穂浪士富森助右衛門と妻るんとの出会いなどに遭遇し「なぜ、このように人の命が粗末に扱われるのか」と苦悩する。「茶杓 消えた伊達家老」など、著者の歴史小説第3弾。

狭山事件 50年目の心理分析

狭山事件

殿岡駿星著 四六判並製
440頁 3200円・税別



1963年5月1日、埼玉県狭山市で発生した女子高校生殺人事件、逮捕された石川一雄さんは無実を訴えて再審開始を求めています。著者は事件のデータをプロファイリングして真犯人の存在を浮き彫りにします。これまで石川さんの無実を証明する本を2冊出していますが、この本は謎だらけの真相に迫る決定版です。

三億円事件の真犯人

殿岡駿星著 四六判上製
・332頁 1700円・税別

10年前に出した本ですが、時々話題になります。2013年12月12日にはテレビ東京、2017年9月7日はテレビスカパーに出演「真犯人は埼玉の農家の青年」と持論を展開。10月9日には週刊ポストの記者に、疑われている自殺した少年Sは無実だと説明しました。

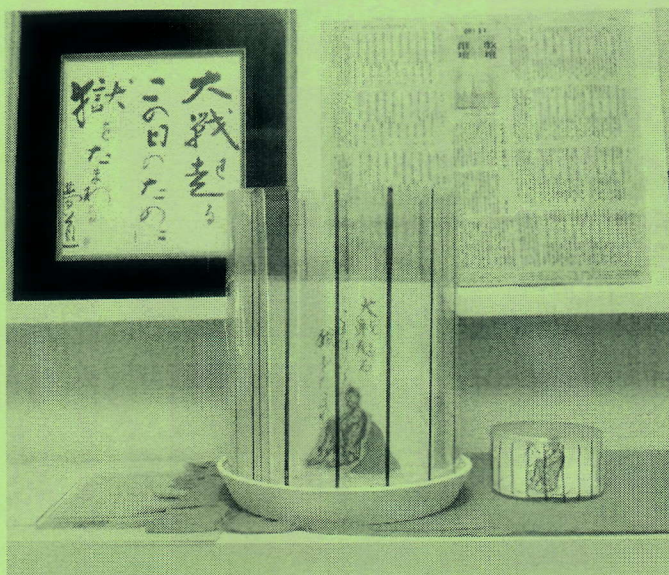
次回「自由俳句の会」は8月24日



第二回「自由俳句の会」は六月八日午後二時から、勝どき書房の橋本夢道資料室で開催しました。参加者は左から殿岡浩佳、山田観風讃さん、風間秀子さん、かさはらばあさん、殿岡駿星でした。ほかに、山口防府の佐川智英実さんがメール投稿参加しました。

「平和プラザ 2019」に参加

「夢道サロン」は8月10日～11日に月島の社会教育会館で開催される「平和プラザ2019 平和をねがう中央区民の戦争展」に参加します。



主な展示は六月十六日付朝日新聞俳壇欄に殿岡駿星が書いたコラム「うたをよむ」の記事、一九四一年十二月八日、獄中で夢道が詠んだ「大戦起るこの日のために獄をたまる」の色紙、「夢道サロン」のメンバーで佐渡の津山晴彦さんが工作した檻の中の夢道です。十日午後四時半からは殿岡駿星が「俳句弾圧事件と日本の司法制度について」話します。

勝どき書房の新刊 2019年7月刊行好評発売中

小さき村なれど 成田の寒村でキリスト教 伝道に生涯を捧げた 元幕臣飯田栄次郎の 物語

小松栄三郎著

四六判236ページ
上製 1800円（税別）

それは、あたかも江戸の中心で起きた幕府の瓦解という激震がもたらした津波のようなものであったかもしれない。その津波が、成田の下福田に押し寄せてきて、村を呑み込んでしまったとも言える。それは徳川幕府が禁じたキリスト教が、幕臣を伝道者にしてしまうほどのエネルギーを持っていたのである。そのエネルギーを、下福田から見つめ直してみたい。

（本文「第一章幕府の兵卒・農村の教会」から）



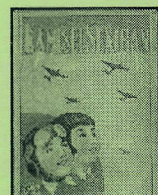
橋本夢道の獄中句・戦中日記

大戦起るこの日のために獄をたまる

殿岡駿星編著

A4判・320頁
2000円・税別

月島の自由律俳人橋本夢道は昭和俳句弾圧事件で1941年2月に逮捕された。44人の俳人が治安維持法違反で検挙され、夢道ら13人が有罪判決を受けた。2年余の獄中、夢道は「紙石板」に300の俳句を作った。そのすべての句と釈放後の1年余の日記。ほかに「夢道サロン」のメンバー8人によるエッセイを掲載。



殿岡駿星編著

大戦起るこの日のために獄をたまる

獄中句・戦中日記

橋本夢道の

昭和の文壇

俳句弾圧事件と日本の司法制度について (2019.08.10)

「夢道サロン」代表 殿岡駿星 (勝どき書房)

①新興俳人 44 人検挙

俳句弾圧事件は 1940 年から 43 年にかけて新興俳句作家 44 人が治安維持法違反で検挙され、13 人が有罪となる。

②「不忘の碑」に 17 句を顕彰

2018 年 2 月、長野・上田市に「俳句弾圧不忘の碑」が建立され、そのうち 17 人の俳句が刻まれた。隣に「檻の俳句館」。

③未決勾留 2 年 1 か月

月島の自由律俳人橋本夢道は、1941 年 2 月 5 日、治安維持法違反容疑で逮捕され、月島署に半年と、巣鴨の東京拘置所 1 年 10 か月、2 年 1 か月勾留された。

④獄中「紙石板」に 300 句

拘置所の独房ではノートは出所時に点検されるため、没収を恐れ俳句が作れない。夢道のために、妻の静子が文房具屋で購入した「紙石板」を差し入れ、約 300 句を刻んだ。

⑤ 1941 年 12 月 8 日

夢道は 1941 年 12 月 8 日、日本軍の真珠湾攻撃を知り、「大戦起るこの日のために獄をたまわる」という句を作った。

⑥日本の特徴・代用監獄 (23 日勾留)

日本では警察の逮捕から 48 時間以内に送検となっているが、さらに調べるには勾留を請求、裁判官が認めれば、警察署の留置場 (代用監獄) に最長 20 日間、計 23 日勾留できる。

西欧ではカナダ・1 日 アメリカ・2 日 ドイツ・2 日 ウクライナ・3 日 イタリア・4 日 ロシア・5 日 フランス・6 日 アイルランド・7 日 トルコ・7.5 日 オーストラリア・12 日 イギリス・4 日 (テロ事件のみ 28 日)

⑦西欧の検察取り調べは 3 日以内

西欧の検察の取り調べは勾留日数が 3 日以内が普通。フランスでは、原則 1 日、長くて 4 日。検察が延長を請求した場合は予審審査があり、1 年～4 年 8 か月の勾留が可能。

⑧100日以上未決長期勾留

沖縄平和運動センター山城博治議長 2016.10.20 から 148 日。
厚労省村木厚子課長・09.6.14~09.11.24 虚偽公文書作成。164 日
籠池泰典・諄子夫妻・17.7.31~18.5.25/森友学園事件。299 日
鈴木宗男・2002.6.19/あっせん収賄容疑。2003.8.29/437 日 2010.
懲役 2 年実刑確定。

カルロス・ゴーン・18.11.19~19.3.5/金融商品取引法。136 日

⑨弁護士立ち会いOKの西欧5か国

アメリカ・イギリス・フランス・ドイツ・イタリアの 5 か国
は容疑者が希望する場合に弁護士の立ち会いを認めている。

⑩狭山事件から 56 年

狭山事件は 1963 年 5 月 1 日に発生、石川一雄さん（現在 81 歳）が女子高校生殺害容疑で逮捕され 56 年になる。無実を訴えて再審請求。石川さんは 5 月 23 日逮捕、起訴される 7 月 9 日まで警察署に留置。無期懲役 31 年 7 月後に仮釈放。獄友の袴田巖さん死刑囚 48 年、桜井昌司さん、杉山章男さん 29 年、管家利明さん 17 年 6 月。

⑪大崎事件の原口ヤス子さんは 92 歳

鹿児島の大崎事件で 19 年 6 月 27 日、最高裁が 1 審 2 審の「再審開始決定」を覆し再審取り消しの判決。1979 年に男性が殺害され、義姉の原口ヤス子さん（現在 92 歳）は殺害容疑で起訴、懲役 10 年を服役、出所後も再審を求めて闘ってきた。

⑫江戸 416 年、変わらぬ自白偏重

明治 150 年という言葉があるが、実は戊辰戦争（明治元年・1868 年）から 77 年、敗戦（1945 年）から 74 年と歴史は二つに別れている。新憲法制定（1947 年）から 72 年。自白偏重の日本の司法は江戸幕府（1603 年）から 416 年変わらず。

⑬憲法 38 条

憲法 38 条、何人も、自己に不利益な供述を強要されない。
強制、拷問若しくは脅迫による自白又は不当に長く抑留若しくは拘禁された後の自白は、これを証拠とすることができない。

◆「俳句弾圧不忘の碑」に顕彰された 17 句（2018 年 2 月 25 日）

降る雪に胸飾られて捕へらる（秋元不死男・東京三）
憲兵の怒気らんらんと廊は夏（新木瑞夫）
墓標立ち戦場つかのまに移る（石橋辰之助）
我講義軍靴の音にたゝかれたり（井上白文地）
戦争をやめろと叫べない叫びをあげている舞台だ（栗林一石路）
兵隊が征くまつ黒い汽車に乗り（西東三鬼）
出でて耕す囚人に鳥渡りけり（嶋田青峰）
一兵士はしり戦場生れたり（杉村聖林子）
千人針を前にゆゑ知らぬいきどほり（中村三山）
戦闘機ばらのある野に逆立ちぬ（仁智栄坊）
血も見えず敵飛行士の亡せゐたり（波止影夫）
大戦起るこの日のために獄をたまわる（橋本夢道）
徐々に徐々に月下の俘虜として進む（平畑静塔）
ナチの書のみ堆し独逸語かなしむ（古家樞夫）
英霊をかざりぺたんと座る寡婦（細谷源二）
血も草も夕日に沈み兵黙す（三谷昭）
戦争が廊下の奥に立ってゐた（渡辺白泉）

◆ 1934 年、夢道は「渡満部隊十句」と題し「俳句生活」に発表。

渡満部隊をぶち込んでぐつとのめり出した動輪
どよめきから部隊をもつて行くレールの鉄錆も五月
表情のない部隊をゆすぶって動輪の狂うがごとき
見えまい親が発車の部隊へぐつとあげた掌も
屋根も腐った町を突き抜けて行く〇〇部隊
生活がここで劃られた如く綱が遮っている輸送部隊
ここで泣く背中の子を汗ばんであやしている兵
守り札も肌身にひとりの兵が真っ白の銃と何を思う
茫茫と何処へ部隊の中に眼をしばたたいたひとりの兵
歴史的に部隊が西へ行くこの国の資本がふくれてくる夏